

# マドリード、1975年

もう足掛け50年前になるこの年、4月4日から13日まで、スペインの首都マドリードで国際切手展が開催された。ヨーロッパでの開催とは言え、英・仏・独などの諸国に比べると、言語的にもなじみの薄いスペインとあって、当時日本からここを訪れた収集家は少なかった。

にもかかわらず、私は審査見習いということで、審査員の市田左右一氏（1910-1987）と一緒に、会期を含む約2週間、ここに滞在した。もちろん各国の審査員たちも、同じホテルに宿泊していたから、朝から晩まで、郵趣談議に花が咲いた。また日本からのコミッショナーとしては、西岡辰二氏（1904-1995）も会期中ずっと別のホテルに滞在されたので、期せずして3人で、ひんぱんに話合う機会もあった。お互いに20年以上も前から旧知の間柄だったから、話も又必然的に思い出話になった。

市田さんは、極めて話好きの性格で、3人の会話は途切れることもなかった。このとき、3人共通の話題だったのが、「日本フィラテリックセンター」の前身、「神戸フィラテリックセンター」（1950年創業）当時の出来事だった。私は、当時京都に住んでいたが、この年には大阪大学へ入学、通学定期を有効活用して、神戸へも度々通うことになった。

魚木五夫（日本郵趣協会名誉会員）



切手展（ESPANA'75）カタログ表紙



Dr. SORCHI ICHIDA  
Japón

市田左右一氏



西岡辰二氏